

セブ島に学ぶ

東洋大国際地域学部研修から

報告者

国際地域学科・2年 勝又 綾奈
国際地域学科・2年 鯨井 美沙

* 4 *



勝又綾奈さん



鯨井美沙さん

私たちは講義の中で、人間が安心して生きていくために、とりわけ住居が重要だということを知りました。私たちにとっては当たり前のことですが、住居は安心して寝られる場所を提供し、衛生という面からも、生活を清潔に保つ役割を果たすからです。

そこで、私たちのグループはバランガイ・ルスでの調査テーマを「住居」としました。調査は2日間かけ、実際に現地の大学生と一緒にスラムを歩き、通訳をもらいながら、住民の方々にインタビューをしました。

インタビューに際しては、年齢や家族構成、世帯の月収といった基本的な事項をまず質問しました。それから、そ



バランガイ・ルスの家屋外観

低収入でも家電そろろう

スラムの多様性知る

の家の価格や築年数、水道や電気などの公共サービスが供給されているのか、現在の家に満足しているのかなどを聞きました。実際に家の中に入って写真も撮らせてもらいました。

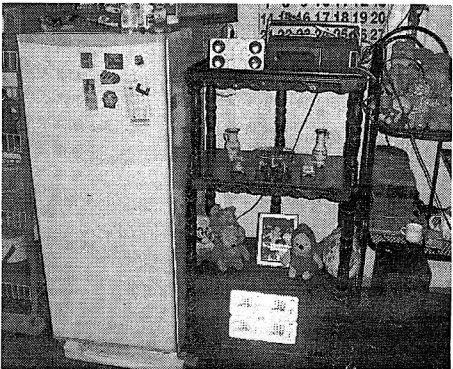
調査した住宅は16軒ですが、そのほとんどが予想以上に

きれいでした。大部分が二階建てとなっていて、電気・水道・ガスといった基本的なインフラが整っています。バランガイ・ルスの歴史が60年に達しているということ、掘って小屋の集合体のような最近できたスラムとは全然違うことが一目瞭然です。ただし、屋根はトタンでできていて、雨が降ると雨漏りが生じてしまいます。人々は雨が降ると、毛布を使って雨にぬれないようにしたり、バケツで水を受けるといった対処をしているようです。

私たちの想像と全く違っていて驚いたのは、多くの家電製品がそろっているということです。テレビ、DVDプレー

炊飯器がほとんどの家にありました。16世帯の月収は、同じスラム暮らしといっても、最低2500ペソから3万ペソまで大きな開きが見られました。最も収入の多い世帯では、家が広くトイレが2つあり、祭壇専用の部屋も設けられていました(16軒すべての家に、祭壇がありました)。電化製品の数も他の家より多く、冷蔵庫や電話、扇風機はそれぞれ2つずつ、ステレオや最新型DVDプレーヤーもありました。

逆に収入が最低の家は、玄関らしきところにさえドアが



バランガイ・ルスの家内部の様子。電化製品が多いことに驚かされた

ヤー、CDラジカセ、ラジオ、オーブントースター、電卓、冷蔵庫、時計、扇風機、

お金がちよっとでもたまるかと、テレビ、そして次にCDやDVDプレーヤーを購入するのです。ただし、どの家にもなかったのが洗濯機です。一番収入の高い家にもありませんでした。人々は洗濯板と桶があれば、それで事足りると思っているようです。

はじめは順調だった調査も、途中で住民に立ち退きを迫る政府の関係者かと疑われ、なかなか快くインタビューに応じてもらえない場面もありました。その背景には、93年エプログラムと呼ばれる土地問題があります。1990年代に入ってから、多くの人がバランガイ・ルスに

移住してきましたが、その土地はセブ州政府の所有地でした。1993年、州政府は、この移住者たちに5年のうちに代金を支払えたら土地を与えることと決め、契約を結びました。しかし、その5年後、代金の支払いを終えることができなかった住民が出たため、更に5年間の延長期間を与えました。しかし、それでも代金を支払えない(支払わない)住民が出ました。

州政府との契約は終了したまま現在にいたり、住民は立ち退きを抱えています。バランガイ・ルスの近郊に大型ショッピングモールや高級ホテルができて、地価が上昇していることが大いに関係しています。州政府もまた、ここを商業地区として再開発する計画を持っているようです。

セブ市は「スラム住民とのパートナーシップを推進する」基本政策で有名になったところですが、行政当局の動きも一枚岩ではないことがわかります。このスラムの価値が上がってきていることは、近年、安価な家を求めてバランガイ・ルスにやってくる人をターゲットとしたアパートが立ち始めていることからもうかがえます。

スラムと言った、「貧しい人が劣悪な環境状態で暮らしているところ」という予想を裏切って、バランガイ・ルスの内部の多様性や、人々が抱えている大きな問題を知ることができたのが、今回の調査の一番の収穫となりました。

な、ただスラムを区切っているという状態で生活が困難に見えました。この家だけは電化製品を持っていませんでした。家具もほとんど無く、生活の大変さがうかがえました。しかし、この家にもイエス・キリストが祭壇ポスターを壁に張り代わりに張り付けてあり、キリスト教への強い信仰が感じられました。

調査を行う前は、スラムの家はもっと狭く、家具もわずかしかないだろうと考えていました。それで、なぜこんなにも電化製品を持っているのか尋ねたところ、答えは「第一に娯楽を求める」でした。お金がちよっとでもたまるかと、テレビ、そして次にCDやDVDプレーヤーを購入するのです。ただし、どの家にもなかったのが洗濯機です。一番収入の高い家にもありませんでした。人々は洗濯板と桶があれば、それで事足りると思っているようです。

はじめは順調だった調査も、途中で住民に立ち退きを迫る政府の関係者かと疑われ、なかなか快くインタビューに応じてもらえない場面もありました。その背景には、93年エプログラムと呼ばれる土地問題があります。1990年代に入ってから、多くの人がバランガイ・ルスに